



「住みたい、住み続けたい、
住んでよかった」と実感できるまちに

市長 伊藤 太

明けましておめでとうございます。

日ごろは市政に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

市長に就任してから、この5月で早くも4年が過ぎようとしています。私は、これまで「市役所は市民のための最大のサービス会社」を基本に、「市民の目線」と「民間の発想」で考え、市政運営に全力で取り組んできました。市債残高の縮減などの行財政改革、地域経済の振興、春日井まつりなどで動き始めた市民協働など、市政のいろいろな面で、将来に向けた土台づくりが着実に進んできたと感じています。

さて、わが国の経済は、長引く景気の低迷や消費の落ち込みから税収の大幅な減収が見込まれています。一方で、地方分権の流れが加速しており、市民に最も身近な基礎自治体

経営には、将来を見据えた一層的確で責任ある判断が求められています。

こうした状況の中、本年は、市民の健康を守る施策や子育て支援策、地域の活力を生み出す経済振興、老朽化が進む公共施設の建て替えやにぎわいと活力につながる鉄道駅周辺整備、さらには環境問題などに積極的に取り組んでまいります。

今後とも、市民の誰もが「住みたい、住み続けたい、住んでよかった」と実感できるまちを目指して、着実な行財政運営に努めつつ、困難な課題に果敢に取り組んでまいりますので、引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆さまのますますのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

次代に向けた新たな流れ

議長 梶田 晃男



明けましておめでとうございます。
平成22年の新春を健やかに迎えになりました市民の皆さまに、謹んで新年のお祝いを申し上げます。
日ごろから、市政および市議会に対しまして、格別なご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。
さて昨年は、夏に衆議院議員総選挙が行われ、新たな政権が発足したことや秋以降には国内において新型インフルエンザが猛威を振るったことなど、日々目まぐるしく社会情勢が変化し、我が国の政治・経済や市民の皆さまの生活に少なからず影響をもたらしました。
これらは、今後の本市の施策や財政にも大きな影響を与えていくことが予想されます。また、雇用問題、年金・福祉などの社会保障

問題、地球温暖化などの環境問題などさまざまな課題が残されております。
こうした中、次代へ良好な社会環境を引き継いで行くために、わたしたちは、その解決に向けて、より積極的に取り組んで行かなければなりません。
市議会といたしましても、こうした課題に対応するため、多様な視点から市の施策や財政状況を厳しく審査・評価し、市民の皆さまの負託に応えられるよう一層努めてまいるので、変わらぬ温かいご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。
どうか、皆さまにとって、新しい年が健康で幸多き年になりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。